

2023年3月期 第2四半期決算説明会

1. 第2四半期決算の概要(連結)
2. 通期の業績見通し
3. 当社の経営戦略

2022年11月11日

日本光電工業株式会社

証券コード : 6849

<https://www.nihonkohden.co.jp>

Fighting Disease with Electronics



NIHON KOHDEN

1

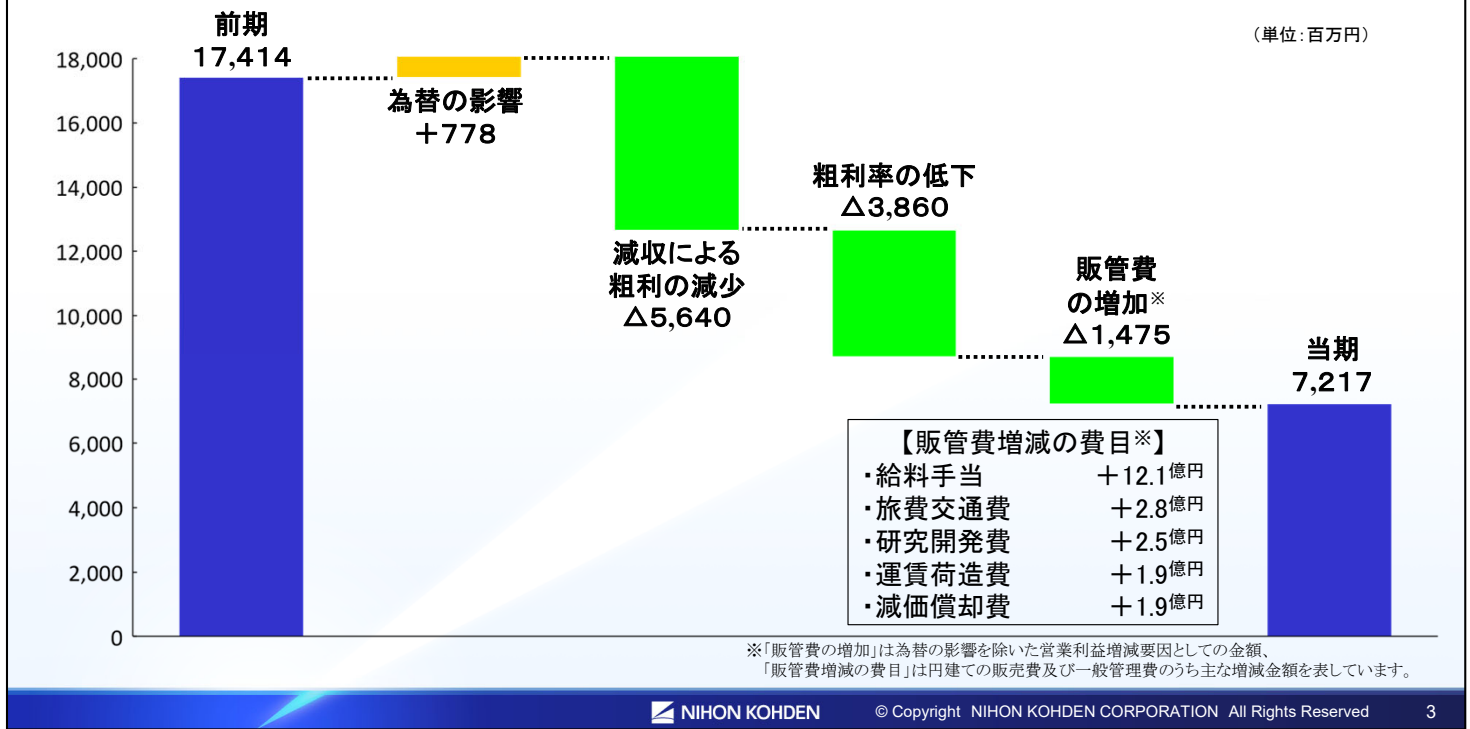
第2四半期決算の概要(連結)

1) 当第2四半期の決算概要

	前第2四半期 累計 (2021/9)	当第2四半期 累計(2022/9)			(単位:百万円、単位未満切捨て)
		期初予想	実績	対前年同期 増減率(%)	
売上高	102,343	88,000	94,349	△ 7.8	
国内売上高	65,164	-	62,584	△ 4.0	
海外売上高	37,178	-	31,764	△ 14.6	為替影響除く: △26%
売上総利益 (売上総利益率)	54,487 53.2%	-	47,596 50.4%	△ 12.6	自社品 売上比率: 2021/9 72.2% 2022/9 → 71.3%
営業利益 (営業利益率)	17,414 17.0%	5,000 5.7%	7,217 7.6%	△ 58.6	販管費: 販管費率: 370億円 36.2% → 403億円 → 42.8%
経常利益	17,990	5,000	13,019	△ 27.6	為替差益 296百万円 → 5,531百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12,294	3,500	8,541	△ 30.5	
平均レート	(2021/9)		(2022/9)		
1米ドル	109.5円		129.7円		
1ユーロ	131.1円		138.4円		

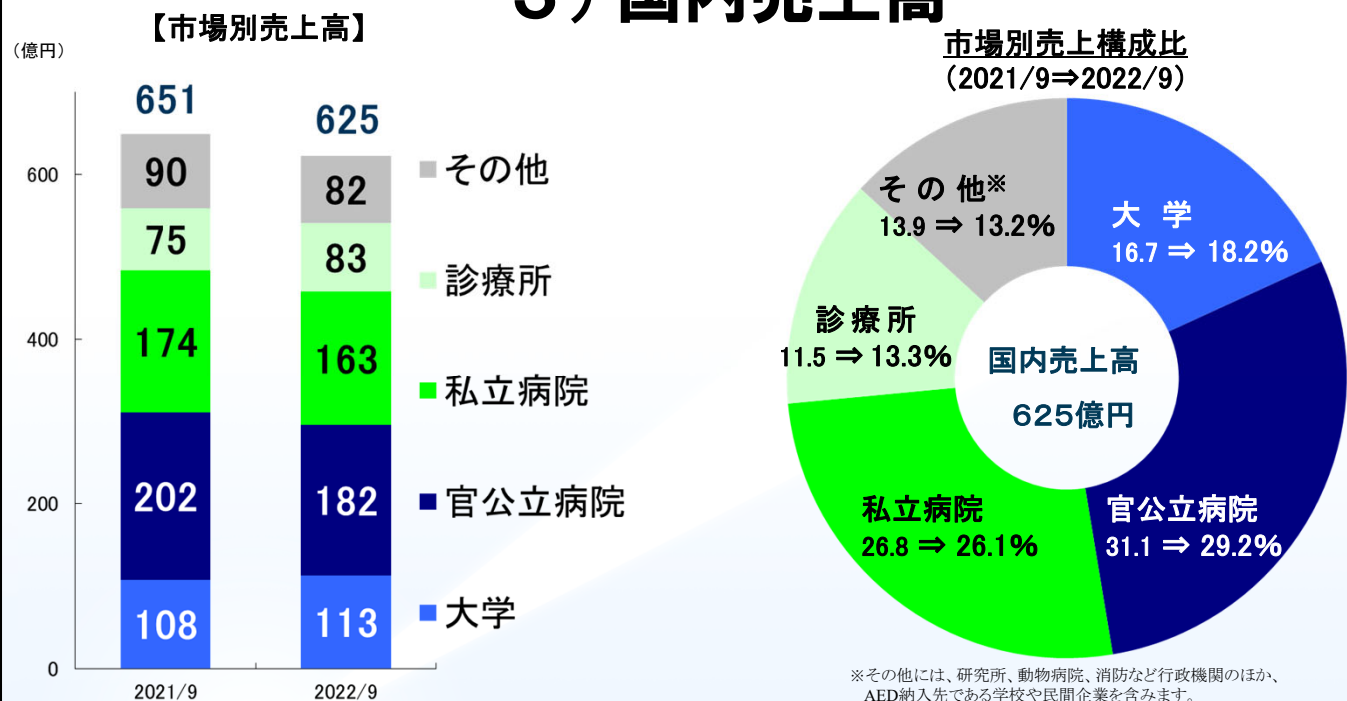
- 売上高は7.8%減の943億円となりました。
国内売上高は4%減の625億円、海外売上高は14.6%減の317億円、
現地通貨ベースでは26%の減少となりました。
- 期初予想に対しては、国内で生体計測機器や検体検査装置が好調に推移し、
海外においても為替が円安に推移したことから、全体で63億円上回りました。
- 粗利率は、商品ミックスの変化や部材価格の上昇により、
2.8%ポイント減の50.4%となりました。
- 営業利益は、減収に加えて、粗利率の低下と販管費の増加により、
58.6%減の72億円となりました。
- 経常利益は為替差益の計上により27.6%減の130億円、
純利益は30.5%減の85億円となりました。

2) 営業利益増減の要因分析



- 営業利益が、前期の174億円から72億円に減少した要因について、ご説明します。
- 為替の影響につきましては、7億円のプラス要因となりました。
- 減収による粗利の減少は、56億円となりました。
- 粗利率の低下につきましては、導入品のカテゴリー等が好調に推移した一方で、生体情報モニタ等の自社品が減収となったことから、38億円のマイナス要因となりました。
- 販管費につきましては、人員の増強に加え、営業・サービス活動の正常化により、旅費交通費等が増加し、14億円のマイナス要因となりました。

3) 国内売上高



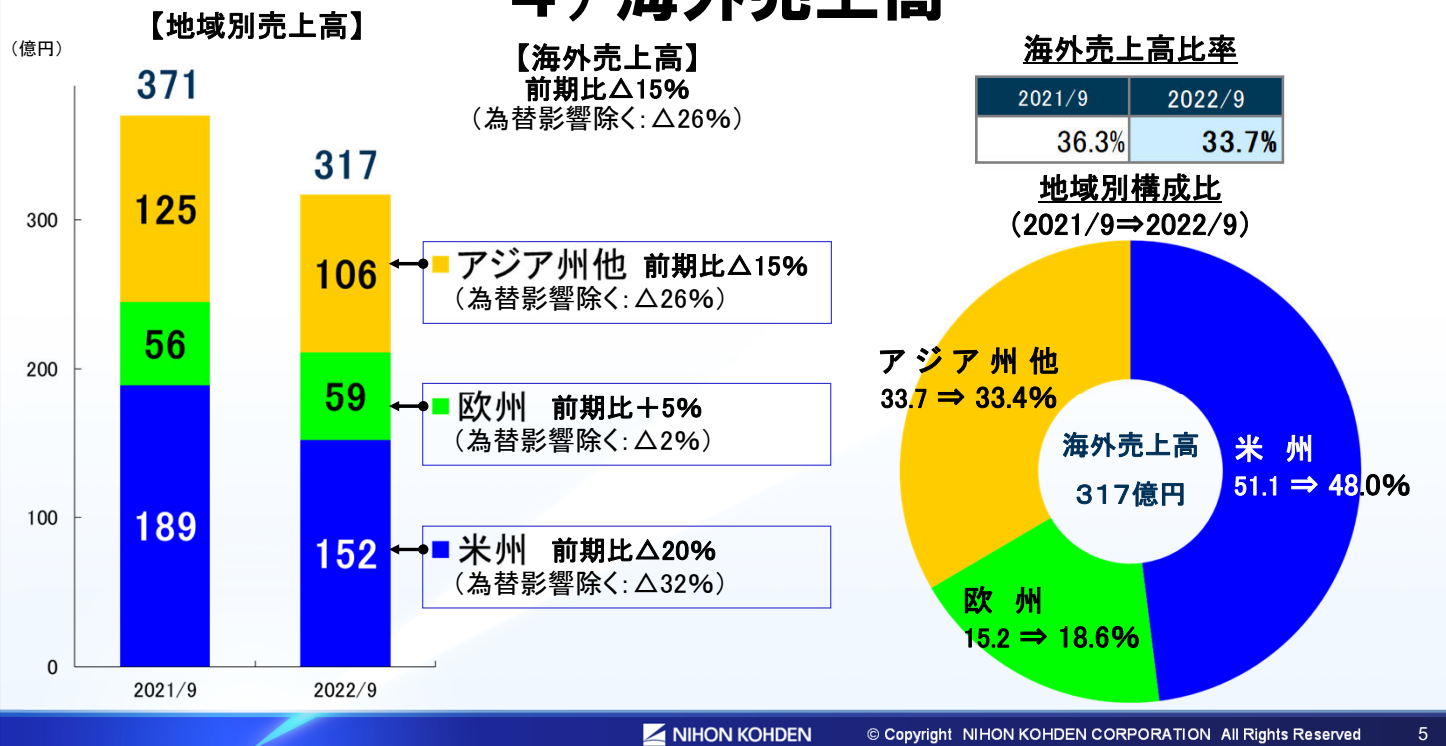
NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

4

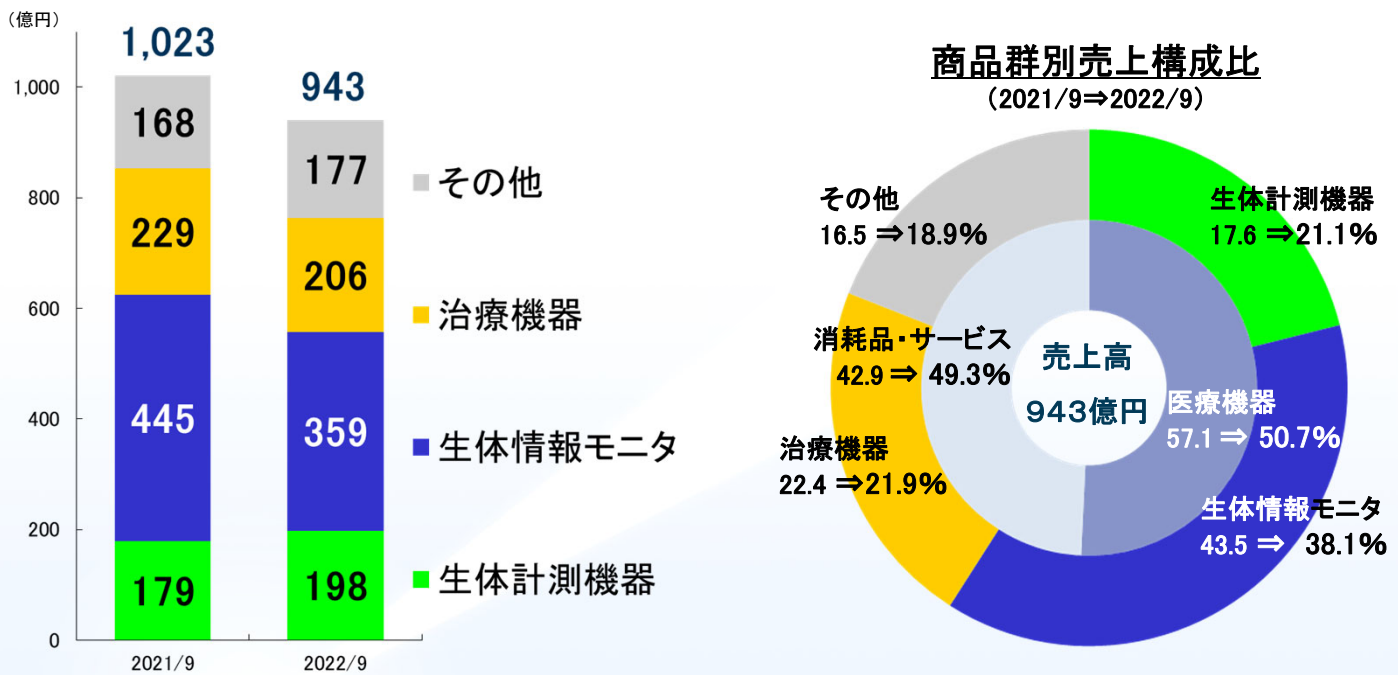
- 国内売上高は、26億円減の625億円となりました。
- 検査・手術件数の回復や設備投資の再開により、生体計測機器や検体検査装置が好調に推移しました。一方で、前年同期に感染症対応のため整備が進んだ生体情報モニタや人工呼吸器の売上が減少しました。
- 市場別では、診療所市場が好調だったほか、大学市場も堅調に推移しました。官公立病院、私立病院市場は減収となりましたが、前年同期のコロナ関連需要の影響を除くと堅調でした。

4) 海外売上高



- 海外売上高は、54億円減の317億円となりました。
- 前年同期に米国での大口商談や感染再拡大地域での需要増加があった生体情報モニタの反動に加え、上海ロックダウンの影響もあり、減収となりました。
- 米州は37億円減の152億円、現地通貨ベースでは32%減少しました。
米国が減収となったほか、中南米も前年同期に売上が倍増したペルー、チリを中心に減収となりました。
- 欧州は3億円増の59億円、現地通貨ベースでは2%減少しました。
ドイツ、イギリスは好調に推移しましたが、フランス、トルコが低調でした。
- アジア州他は19億円減の106億円、現地通貨ベースでは26%減少しました。
上海ロックダウンにより現地生産・営業活動が一時停止したため、中国での売上が低調に推移しました。前年同期に売上が倍増したインド、タイ、マレーシアも減収となりました。

5) 商品群別売上高



- 商品群別の売上高の状況は、ご覧のとおりです。
- 生体計測機器が二桁成長となったほか、その他商品群も好調に推移しました。一方で、生体情報モニタ、治療機器は、好調だった前年同期を下回りました。
- カテーテル等の消耗品や、医療機器の設置工事・保守サービスが好調に推移し、消耗品・サービスの売上構成比率は、49.3%となりました。

5.1) 生体計測機器

	前第2四半期 累計(2021/9)	当第2四半期 累計(2022/9)	増減率(%)
脳神経系群	3,318	4,081	23.0
心電計群	3,254	2,911	△ 10.6
心臓カテーテル検査装置群	6,424	8,006	24.6
その他(診断情報システム等)※	5,000	4,896	△ 2.1
生体計測機器合計	17,998	19,896	10.5
うち国内売上高	13,371	15,700	17.4
うち海外売上高	4,627	4,196	△ 9.3

脳神経系群、心臓カテーテル検査装置群が
二桁成長。診断情報システム、心電計群も
堅調に推移。

心電計群が全ての地域で減収。脳神経系群は
アジア州他を中心に好調に推移。

※その他には、診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

7

- 「生体計測機器」は、全体で10.5%増の198億円となりました。
- 国内は、17.4%増の157億円となりました。検査・手術件数の回復、設備投資の再開により、脳神経系群、心臓カテーテル検査装置群が二桁成長となりました。診断情報システム、心電計群も堅調に推移しました。
- 海外は、9.3%減の41億円となりました。脳神経系群は、アジア州他を中心に好調に推移した一方、心電計群が全ての地域で減収となりました。上海ロックダウンにより心電計の現地生産・出荷に影響がありました。

5.2) 生体情報モニタ

	前第2四半期 累計(2021/9)	当第2四半期 累計(2022/9)	増減率(%)
生体情報モニタ合計	44,546	35,964	△ 19.3
うち国内売上高	23,806	20,291	△ 14.8
うち海外売上高	20,740	15,672	△ 24.4

(単位:百万円)

前年同期に好調だった送信機、ベッドサイドモニタが大幅減収。臨床情報システムは二桁成長。

米国、中南米、アジア州他は大幅増収となった前年同期を下回る。欧州は前年同期を上回る。



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8

- 「生体情報モニタ」は、全体で19.3%減の359億円となりました。
- 国内は、14.8%減の202億円となりました。前年同期に好調だった送信機、ベッドサイドモニタが減収となった一方で、大口商談もあり、臨床情報システムは二桁成長となりました。
- 海外は、24.4%減の156億円となりました。前年同期に大口商談があった米国や、大幅増収だった中南米、アジア州他が減収となりましたが、欧州は前年同期を上回りました。

5.3) 治療機器

	前第2四半期 累計(2021/9)	当第2四半期 累計(2022/9)	増減率(%)
医科向け除細動器	4,137	3,782	△ 8.6
A E D	8,713	9,159	5.1
ペースメーカー・ICD	1,288	1,165	△ 9.6
人工呼吸器	5,381	2,934	△ 45.5
その他	3,443	3,647	5.9
治療機器合計	22,965	20,689	△ 9.9
うち国内売上高	14,321	12,252	△ 14.4
うち海外売上高	8,644	8,436	△ 2.4
(参考) AED販売台数	54,300台	56,100台	3.3
うち国内販売台数	29,600台	25,200台	△ 14.9

(単位:百万円)

【国内】更新商談の受注により堅調に推移。
【海外】欧州、アジア州他が減収。

【国内】好調だった前年同期を下回る。
【海外】全ての地域で好調に推移。

【国内】大幅増収となった前年同期を下回る。
【海外】前年同期に需要が増加したアジア州他、中南米が大幅減収。



除細動器
EMS-1052



モバイル
AED-M100



オートショック
AED-3250



心臓ペースメーカー
Zenex MRI



人工呼吸器
NKV-550



人工呼吸器
NKV-330



人工呼吸器
HAMILTON-C6

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

9

- 「治療機器」は、全体で9.9%減の206億円となりました。
国内は14.4%減の122億円、海外は2.4%減の84億円となりました。
- 医科向け除細動器は、国内は更新商談の受注により堅調に推移したものの、海外が欧州、アジア州他で減収となったことから、8.6%減の37億円となりました。
- AEDは、販売台数が全体で56,100台、売上は5.1%増の91億円となりました。
国内は好調だった前年同期を下回りましたが、海外が底堅い需要に支えられ、全ての地域で好調に推移しました。
- 人工呼吸器は、45.5%減の29億円となりました。国内は、大幅増収となった前年同期を下回りました。海外も、前年同期に需要が増加したアジア州他、中南米が大幅減収となりました。

5.4) その他

	前第2四半期 累計(2021/9)	当第2四半期 累計(2022/9)	増減率(%)
検体検査装置	5,136	5,800	12.9
画像診断装置他※	11,695	11,998	2.6
その他合計	16,832	17,799	5.7
うち国内売上高	13,666	14,339	4.9
うち海外売上高	3,166	3,459	9.3

(単位:百万円)

検体検査装置や医療機器の設置工事・保守サービスが好調に推移。自社品販売の注力により、現地仕入品は減収。

血球計数器・試薬が中南米、欧州で好調に推移。

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。



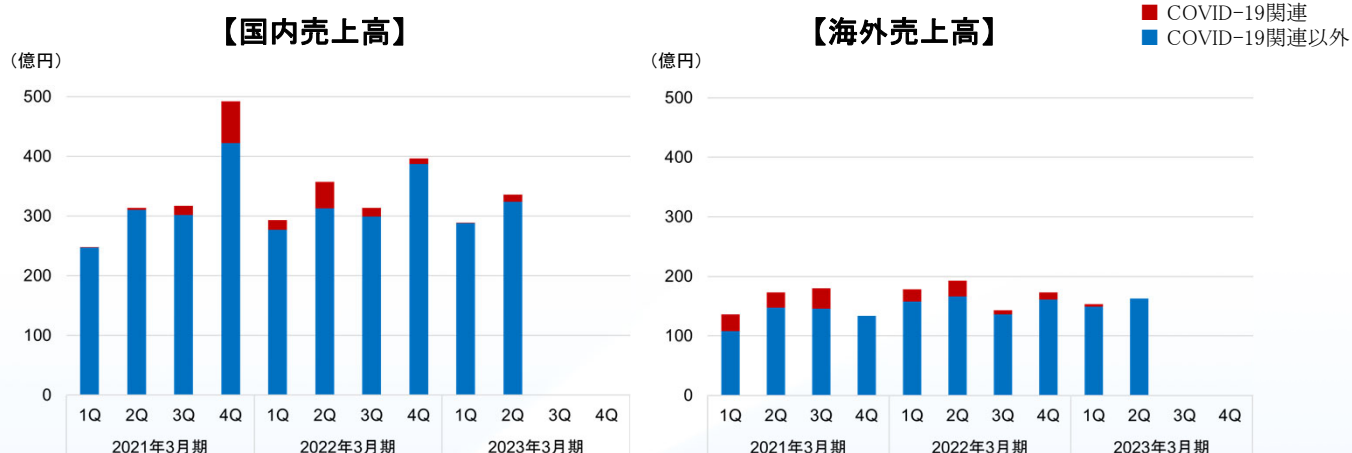
NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

10

- 「その他商品群」におきましては、全体で5.7%増の177億円となりました。
- 国内は、4.9%増の143億円となりました。検体検査装置や医療機器の設置工事・保守サービスが好調に推移しました。自社品販売の注力により、現地仕入品は減収となりました。
- 海外は、9.3%増の34億円となりました。血球計数器・試薬が中南米、欧州で好調に推移しました。

[参考] COVID-19関連需要(概算)



2023/3 第2四半期累計 COVID-19関連需要		国 内		海 外	
			対前年同期増減		対前年同期増減
生 体 情 報 モ ニ タ		9億円程度	△31億円程度	2億円程度	△23億円程度
人 工 呼 吸 器		4億円程度	△16億円程度	1億円程度	△9億円程度
除 細 動 器		—	—	1億円程度	△4億円程度
合 計		13億円程度	△47億円程度	4億円程度	△36億円程度

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

11

- コロナ関連需要につきましては、国内、海外ともに前年同期から大幅に減少しています。

6) 財政状態

(単位: 百万円)

	前期末 2022/3	当第2四半期末 2022/9	増減額		前期末 2022/3	当第2四半期末 2022/9	増減額
流動資産	171,875	168,213	△ 3,662	流動負債	50,804	43,905	△ 6,899
棚卸資産	48,367	57,886	9,519	有利子負債	325	325	—
有形固定資産	19,920	20,604	683	固定負債	3,016	2,962	△ 53
無形固定資産	3,737	4,293	556	純資産	156,381	162,424	6,043
投資その他資産	14,667	16,180	1,512				
資産合計	210,201	209,292	△ 909	負債・純資産合計	210,201	209,292	△ 909
棚卸資産回転月数	6.1ヵ月	7.1ヵ月		自己資本比率	74.4%	77.6%	

【棚卸資産の増加の理由】

- ・ 部品供給ひっ迫に対応するため、在庫を積み増し +95億円
(うち製品在庫+51億円、部品在庫+42億円)

- 総資産は9億円減少し、2,092億円となりました。
- 棚卸資産につきましては、部品供給のひっ迫に対応するため、製品在庫、部品在庫を積み増しており、回転月数が7.1ヵ月となりました。

7) 設備投資と研究開発費

(単位: 百万円)

	前第2四半期 累計(2021/9)	当第2四半期 累計(2022/9)	2022/3 前期実績	2023/3予想	
				期初	11月9日修正
設備投資額	814	2,125	3,022	5,600	5,600
減価償却費	1,561	1,711	3,422	3,700	3,900
研究開発費	2,658	2,911	5,711	6,300	6,400

●2023/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備

インド 試薬新工場の建設	総投資額: 約11億円	< 2023/3: 10億円 2024/3: 1億円	着工: 2022年9月 完成: 2023年春 稼働開始: 2024年春予定
PLM/MES※システムの導入	設備投資額: 約25億円	< 2023/3: 4億円 2024/3~2025/3: 21億円	PLM: 2024/3下期稼働予定 MES: 2025/3稼働予定

※PLM(Product Life-cycle Management): 製品ライフサイクル管理、MES(Manufacturing Execution System): 製造実行システム。

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

13

- 設備投資は21億円、減価償却費は17億円、研究開発費は29億円となりました。
- 通期につきましては、設備投資は56億円を見込んでいます。
為替が円安に推移していることもあり、
減価償却費は39億円、研究開発費は64億円に見直しました。

2

通期の業績見通し

1) 経営環境

欧米での金融引き締めにより世界経済の減速感が強まる
部品・資源価格の高騰に伴い、下期から製品・消耗品の価格を上げ

国内

新興感染症等に対応できる医療提供体制の構築、集中治療体制の強化

- ・ 2022年4月 診療報酬改定：本体0.43%増
急性期、集中治療領域における評価項目を新設
- ・ 新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金：
2023年3月末まで

医療機能の分化・連携、
地域包括ケアシステムの推進

- ・ 地域医療介護総合確保基金 2022年度1,029億円(医療)

海外

欧米諸国

- ・ 看護師不足が深刻化、医療のDXが加速、
医療の質と効率性の向上
- ・ 欧州の一部地域で医療インフラ近代化

中国

- ・ 医療機器の国産優遇の動きを注視

新興国

- ・ 一部の国で保護主義化の傾向

- 社会・経済活動は概ね回復基調にある一方で、欧米における金融引き締めにより、世界経済の減速感が強まっています。また、部品および資源価格の高騰が続いており、当社においても下期から製品と消耗品の価格を引き上げる予定です。
- 国内では、感染症に対応できる医療提供体制の構築、集中治療体制の強化に加え、医療機能の分化・連携、地域包括ケアシステムの構築が推進されています。
- 海外では、看護師不足が深刻化する中、医療のDXが加速するとともに、医療の質と効率性の向上が求められています。中国での医療機器の国産優遇の動きに加え、一部新興国における保護主義化の傾向を注視しています。

2) 通期の業績見通し

	2022/3 前期実績	2023/3予想		増減率 (%)
		期初	11月9日修正	
売上高	205,129	195,000	208,000	1.4
国内売上高	136,321	130,500	135,000	△ 1.0
海外売上高	68,807	64,500	73,000	6.1
売上総利益 (売上総利益率)	109,085 53.2%	98,200 50.4%	105,200 50.6%	△ 3.6
営業利益 (営業利益率)	30,992 15.1%	16,500 8.5%	19,000 9.1%	△ 38.7
経常利益	34,563	16,500	23,500	△ 32.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	23,435	11,000	16,000	△ 31.7
海外売上高比率	33.5%	33.1%	35.1%	
平均レート				
1 米 ド ル	111.3円	117円	135円	(下期) 140円
1 ユ ー ロ	130.6円	130円	139円	140円

為替影響除く: △10%

【地域別海外売上高】

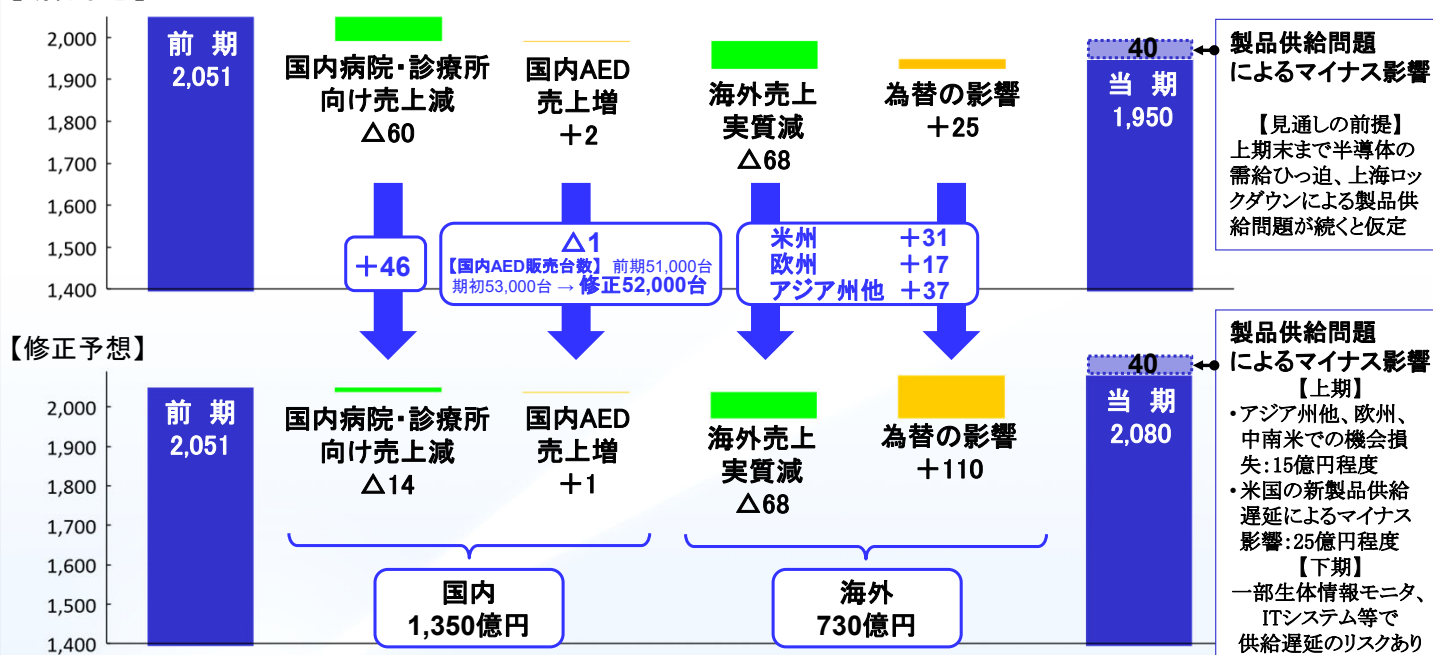
	2022/3 前期実績	2023/3予想		増減率 (%)
		期初	11月9日修正	
米 州	33,436	34,400	37,500	12.2
欧 州	11,449	10,100	11,800	3.1
アジア州他	23,921	20,000	23,700	△ 0.9
海 外 計	68,807	64,500	73,000	6.1

- 通期の業績見通しにつきましては、上期に国内が想定を上回って推移したこと、海外は現地通貨ベースでは概ね計画どおりだった一方で為替が想定よりも円安基調であることから、上方修正しました。
- 連結売上高は前期比1.4%増の2,080億円、国内売上高は1%減の1,350億円、海外売上高は6.1%増の730億円、現地通貨ベースでは10%の減少を見込んでいます。
- 国内売上高は前回予想から45億円増加、海外売上高は85億円増加の見通しです。
- 営業利益につきましては、38.7%減の190億円、前回予想からは25億円増を見込んでいます。経常利益、純利益につきましては、ご覧のとおりです。
- 下期の為替の前提につきましては、ドル、ユーロともに140円としています。

3) 売上見通しの要因分析

【期初予想】

(単位: 億円)



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

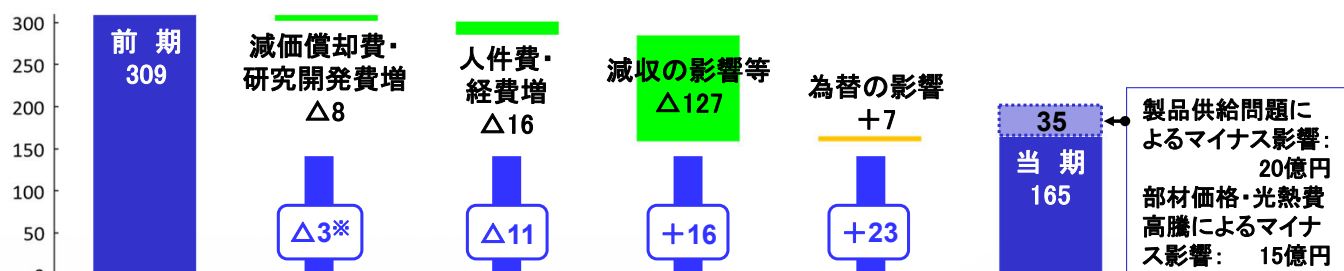
17

- 国内の病院・診療所向けは、上期に生体計測機器、検体検査装置が好調に推移したこと、一部でコロナ関連需要が継続したことから、14億円の減少に見直しました。AEDの通期売上は1億円の増加、販売台数は52,000台に見直しました。
- 海外売上高は、68億円の実質減、為替は110億円のプラス影響を見込んでいます。前回予想に対して、米州が31億円、欧州が17億円、アジア州他が37億円上振れる見込みです。為替影響を除く実質ベースでは、上期の業績をふまえ、米国を下方修正、欧州、アジア州他を上方修正しました。
- 下期においても、製品の供給遅延リスクが残っており、引き続き注視が必要です。

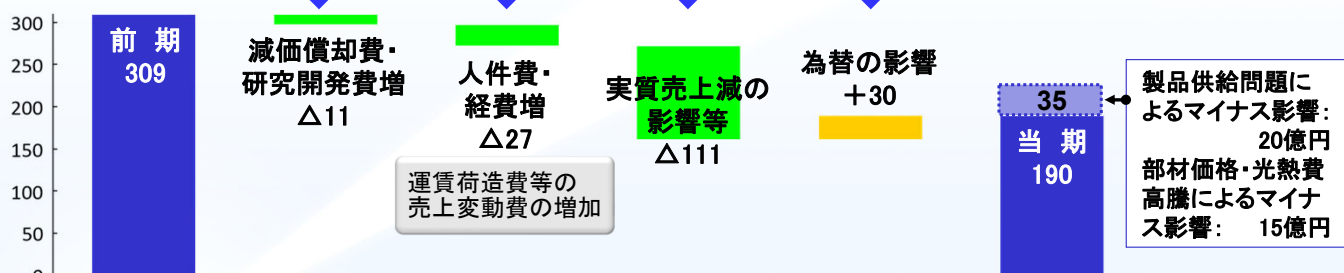
4) 営業利益見通しの要因分析

(単位: 億円)

【期初予想】



【修正予想】



※減価償却費・研究開発費増の期初予想と修正予想との差異は、一部為替の影響を含みます。

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

18

- 減価償却費・研究開発費は11億円の増加、人件費・経費は27億円の増加に見直しました。運賃荷造費等の売上変動費が増加する見込みです。
- 実質の売上減による影響等は、111億円を見込んでいます。このうち、粗利率低下の影響は5割程度です。
- 為替は30億円のプラス影響です。

[参考]商品群別売上高見通し/為替の影響

	2022/3 前期実績	2023/3予想 期初	2023/3予想 11月9日修正		増減率(%)
			構成比(%)	構成比(%)	
生体計測機器	39,681	41,100	44,800	21.5	12.9
生体情報モニタ	84,860	75,900	80,100	38.5	△ 5.6
治療機器	43,388	41,000	42,800	20.6	△ 1.4
その他	37,198	37,000	40,300	19.4	8.3
売上高合計	205,129	195,000	208,000	100.0	1.4

(単位:百万円)

(ご参考)

消耗品・サービス	90,576	94,800	101,300	48.7	11.8
----------	--------	--------	---------	------	------

為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
米ドル	3.6億円	0.8億円
ユーロ	0.6億円	0.2億円

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

19

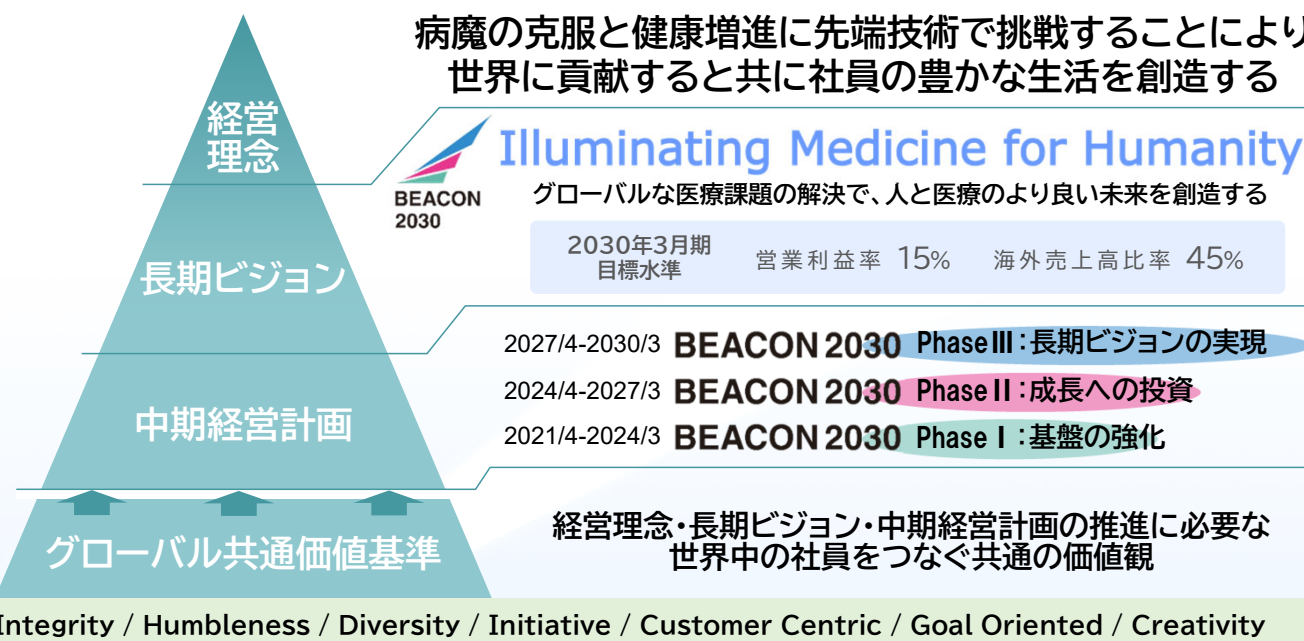
- 商品群別の売上高見通しについては、上期業績をふまえ、修正しました。
- 国内、海外ともに、引き続き、消耗品・サービスの提案強化に取り組めます。
- 為替感応度はご覧のとおりです。

3

当社の経営戦略

長期ビジョンと中期経営計画

病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより
世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

21

- 3カ年中期経営計画は、長期ビジョン「BEACON 2030」を実現するための第1フェーズです。
- 持続的な成長を支えるための基盤を強化するとともに、2030年に向けて、新たな成長領域、事業モデルの探索を推進します。

中期経営計画 基本方針

事業と企業活動を通じてサステナビリティを推進

経営

コンプライアンスの徹底とグループガバナンスの一層の強化により、経営基盤を強化する。

事業

既存事業の収益性を改善することで得た原資により、戦略的な先行投資を実施し、新たな成長への種を蒔く。

組織

グローバルSCMの構築とコーポレートの主要機能の強化により、グローバル成長の礎を築く。

- 中期経営計画では、事業と企業活動を通じたサステナビリティの推進を基本方針として、経営、事業、組織の3つの視点から、重要課題に取り組んでいます。

マテリアリティ・KPIの実績開示

中期経営計画3年間累計目標

初年度22/3期実績

AED
販売台数: 35万台以上
(国内・海外、3年間累計)

10万台
(進捗率 29%)

esimmed CCO synECi.18 iMBP
搭載機種販売台数:
85,000台以上
(国内・海外、3年間累計)

34,000台
(進捗率 40%)

MD Linkage
接続機種数: 7機種以上
接続台数: 5,000台以上
(国内・海外、3年間累計)

5機種
(進捗率 71%)
566台
(進捗率 11%)

環境配慮型
製品売上比率:
20%以上 (3年間累計)

19.9%
(63シリーズ)

<https://www.nihonkohden.co.jp/information/management.html#materiality>

TCFD※1提言に基づく情報開示

✓「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」
「指標と目標」を開示

✓ 脱炭素社会の実現に向けて
・ CO₂排出量のSBT※2設定を推進
・ 環境配慮型製品の開発を推進

※1 TCFD (Task Force on Climate-related Financial Disclosure):
気候関連財務情報開示タスクフォース。

※2 SBT (Science Based Target): パリ協定が求める水準と整合した、5年～15年先
を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標。

<https://www.nihonkohden.co.jp/information/environment.html#TCFD>

NK Sustainability Initiativesを開始

国内外グループ各社・各部門で
サステナビリティに関する
ディスカッションを実施中



- サステナビリティの推進においては、中期経営計画で目標設定したマテリアリティ・KPIにつきまして、初年度の実績を開示しました。
- TCFD提言への賛同を表明するとともに、気候変動に関する「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」の4項目について、情報を開示しました。
- また、サステナビリティを事業活動の中核とする企業文化を育むために、新たに、全社員を対象としたサステナビリティ・ディスカッションを開始しました。

コンプライアンスの徹底・ グループガバナンスの一層の強化

再発防止策の推進

- ✓ 再発防止策実行管理委員会による
モニタリングを継続

上期

- ✓ 寄附金ウェブ申請・審査
- ✓ ディーラー向けウェブシステム
デューデリジェンス・法令遵守誓約・通報窓口の
周知完了（2022年1月開始、10月完了）

下期

- ✓ 外部専門家による
コンプライアンス研修を実施
国内支社支店・国内事業本部の管理職が対象
(2022年10月～11月)

グループガバナンスの強化

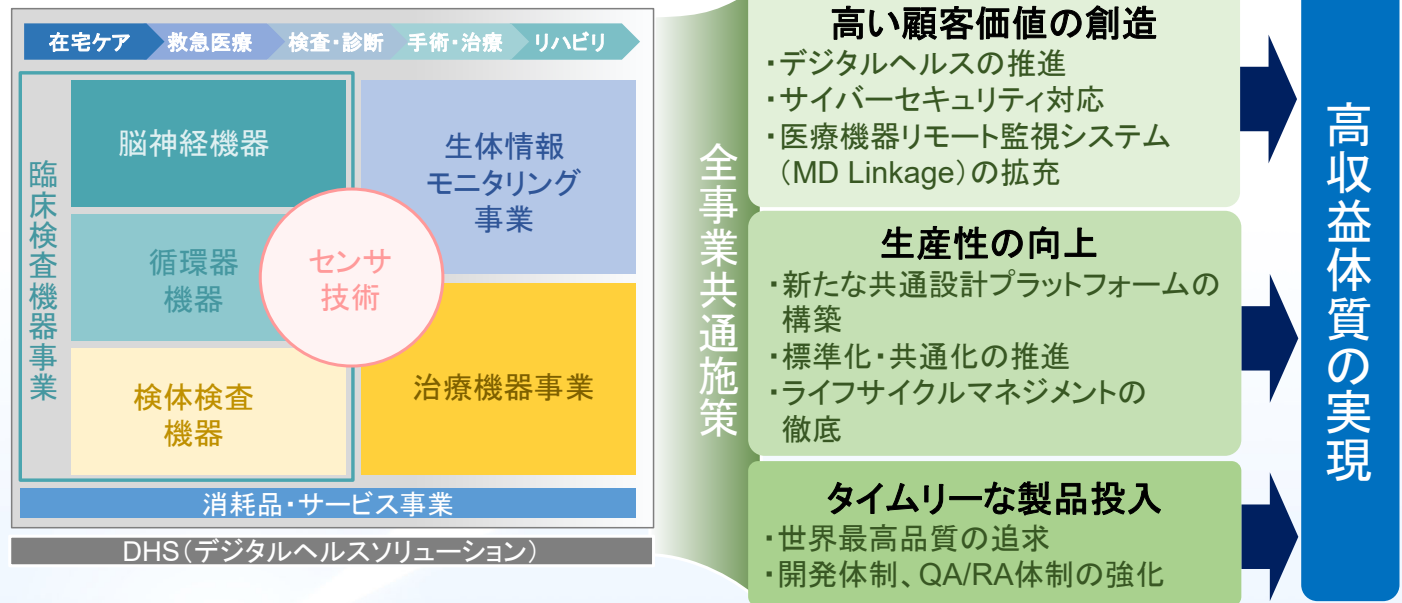
- ✓ グローバル経営管理ポリシーの更新、
海外子会社での運用定着、
国内向けポリシーの策定

経理 人事 法務 情報セキュリティ

- ✓ 国内販売における
内部統制システムの強化
- ✓ 全社的なリスク管理体制の
高度化を推進

- 経営の視点では、昨年1月に発生したコンプライアンス事案に関して、再発防止策実行管理委員会によるモニタリングを継続しています。
- 上期は、寄附金ウェブ申請の審査を実施したほか、ディーラーに対するデューデリジェンス、および、通報窓口の周知を完了しました。
- 下期には、外部講師による研修を行うなど、継続してコンプライアンスの徹底を図ります。
- グループガバナンスの強化に向けては、海外子会社におけるグローバル経営管理ポリシーの運用定着を図るとともに、国内向けポリシーの策定を進め、内部統制システムの一層の強化に取り組みます。
- 全社的なリスク管理体制の高度化も推進します。

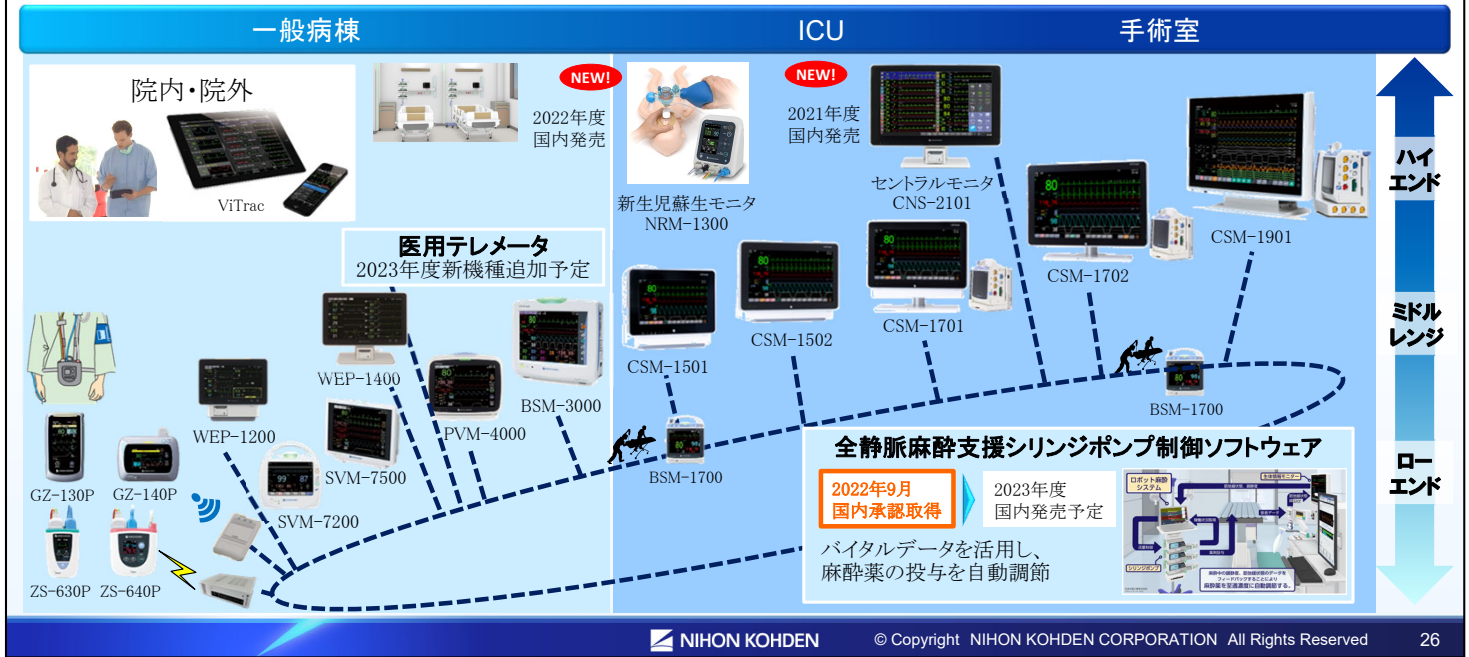
既存事業における収益性の改善



- 事業の視点では、既存事業における収益性の改善に向けて、高い顧客価値の創造、生産性の向上、タイムリーな製品投入に取り組み、高収益体質の実現を目指します。
- デジタルヘルスの推進、サイバーセキュリティへの対応、共通設計プラットフォームの構築、ライフサイクルマネジメントの徹底、グローバルな開発・品質管理体制、規制対応力の強化は、全事業に共通する重要施策です。

生体情報モニタリング事業

✓ 製品ラインアップの拡充、機能強化による顧客価値提案の推進



- 成長を牽引する生体情報モニタリング事業では、製品ラインアップの拡充、機能向上により、高い顧客価値を創造します。
- これまでになかった新製品として、新生児蘇生に特化したモニタをまず国内で発売しました。今後は、新興国における新生児の死亡率や重篤な後遺症の低減を目指します。
- 医用テレメータの新機種は、部品供給ひっ迫の影響により、来年度から発売する予定です。
- 従来、ロボット麻酔システムとしてご紹介していましたソフトウェアは、9月に国内で承認を取得しました。バイタルデータを活用し、麻酔薬の投与を自動調節することで、手術中の医療安全、業務効率の向上に寄与すると期待しており、現在、発売に向けて準備を進めています。

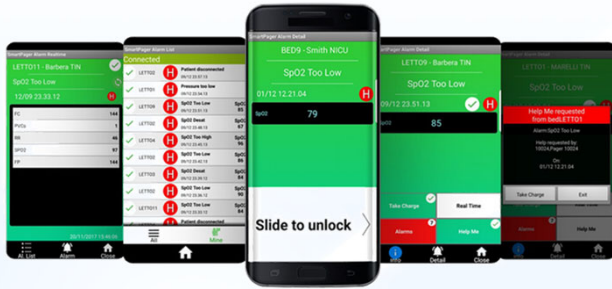
Digital Health Solutions構想の実現

イタリア Software Team社を買収



- ・本社： イタリア・ミラノ
- ・設立： 1988年
- ・代表者： ロベルト・マジヨーニ氏 (CEO)
- ・事業内容： 医用電子機器用ソフトウェアの開発・販売

- ・当社のDHS(デジタルヘルスソリューション)構想と高い親和性
- ・欧州市場における生体情報モニタ商談の提案力強化を期待



生体情報モニタ等の
アラーム情報を
スマートフォン等に転送

- ・アラーム見逃しの低減
- ・迅速・適切な処置

医療の質向上



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

27

- この度、当社のDHS構想と親和性の高いイタリアのSoftware Team社の買収を決定しました。
- Software Team社は、生体情報モニタなどの医療機器から取得したアラーム情報をスマートフォンに転送するソフトウェアを開発、販売しています。当社の生体情報モニタシステムと統合し、高度なアラーム管理ソリューションを提供することにより、重篤なアラームの見逃しやアラーム疲労などの医療課題の解決につながることを期待しています。
- 今回の買収を通して、欧州を中心とした生体情報モニタ市場におけるシェア拡大を目指すとともに、引き続きDHS構想の実現に向けた取り組みを強化します。

臨床検査機器事業

✓ 製品ラインアップの拡充、機能強化による顧客価値提案の推進

脳神経機器

✓ ネットワーク対応の脳波アンプを開発

- 病棟やICUでの脳波モニタリングを簡便に実施可能
- 再生端末でもリアルタイムで脳波・ビデオ画像を参照
- アーチファクト(ノイズ)除去機能が向上



循環器機器

✓ 普及タイプ心電計のラインアップ拡充



心電計
ECG-3250
2022年度発売

- 内蔵無線LANを搭載
- パソコンのWebブラウザでデータ参照が可能



心電計
ECG-3350
2020年度発売



心電計
ECG-3150
2019年度発売



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

28

- 臨床検査機器事業においても、高い顧客価値の創造を推進します。
- 脳神経分野では、脳波検査のワークフロー改善につながるネットワーク対応型脳波アンプを発売しました。病棟やICUにおいても、患者さんの行動を制限せずシームレスに脳波を測定できます。また、新搭載のアーチファクト除去機能により、効率的かつ高精度な脳波検査を可能とします。
- 循環器分野では、無線LANを内蔵し、Webブラウザでもデータ参照できる心電計を投入しました。
- これらのネットワーク対応型検査機器から得られるデータを、データマネジメントシステムに統合することにより、医療従事者の業務負荷軽減や検査効率の向上につながるDHS構想の基盤を構築します。

グローバル事業における戦略強化

日本：医療の質向上、医療課題の解決に向けたソリューション提案を強化

✓ 顧客価値提案の強化

医療安全 診療実績 業務効率 につながる
提案営業力の強化、サービスの拡充



✓ 遠隔ICU構想の検証開始



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

29

- 日本では、引き続き、顧客価値提案を軸とした変革を推進します。
営業とサービスが一体となり、医療安全、診療実績、業務効率につながるソリューション提案力の一層の向上を図ります。
- 当期から、高度集中治療体制の強化、および、限られた医療資源の有効活用を支援するために、遠隔ICU構想の検証を進めています。
- 下期には、患者さんの容態変化の監視を支援する新たなソフトウェアを上市する予定です。心拍数、SpO₂、血圧などのバイタルサインから独自のスコアを算出し、容態変化の早期発見と迅速な対応を可能とします。

米国：子会社7社の統合と融合による米国事業のさらなる成長

✓ 製品ラインアップの拡充



✓ 大規模ネットワークに対応したモニタリングソリューションの提案を強化

NEW! 中位機種ベッドサイドモニタ
2022年度発売



人工呼吸器



救急蘇生機器



DHS(デジタルヘルスソリューション)

CoMET®: Continuous Monitoring of Event Trajectories 患者容態管理のためのアルゴリズム・ソフトウェア
2022年度FDA申請



- 米国では、子会社7社の機能面の統合と融合により、事業基盤を強化し、さらなる成長を目指します。
- 新製品としては、上期に、中位機種ベッドサイドモニタとマスク型人工呼吸器を発売しました。
- 大規模ネットワークに対応したモニタリングソリューションの提案を強化するとともに、AMP3D社で開発中のソフトウェアを組み合わせることにより、看護師不足や診療実績の向上といった医療課題の解決に資するDHSの提供を目指します。
- 人工呼吸器については、マスク型人工呼吸器の市場展開に注力するほか、日本光電オレンジメッドで開発した中位機種モデルの発売準備を進めます。

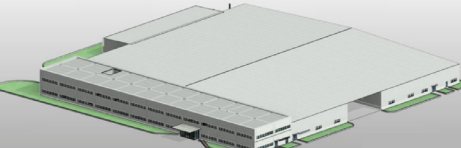
新興国：日本・米国製、上海製の新製品の提案を強化

日本・米国製品		ハイエンド市場		人工呼吸器		血球計数器		血球計数・赤血球沈降速度測定装置		血球計数・免疫反応測定装置	
救急 除細動器 EMS-1052	ICU ベッドサイドモニタ CSM-1500/1700シリーズ	人工呼吸器 NKV-330 ベッドサイドモニタ PVM-4000	人工呼吸器 NKV-550 人工呼吸器 中位機種モデル 2022年度発売予定	MEK-9200 2021年度発売	DynaScatter Laser MEK-1301/02	CIRHEX Technology MEK-1305	MEK-1303+HbA1c※2 2022年度発売予定				

上海製品		ミドル&ローエンド市場	
現地開発・生産 心電計 ECG-3150/3350	心電計 ECG-3250 2022年度発売	NEW! スポットチェック モニタ SVM-7100	ベッドサイド モニタ SVM-7500
中国市場向け現地開発 検体自動搬送システム 白血球5分類とCRP※1を測定 2021年度発売	中国市場向け現地生産 除細動器 TEC-5600	AED AED-3100	ベッドサイド モニタ BSM-3000 2021年度発売
			血球計数器 MEK-9100 2021年度発売

インド試薬新工場

総投資額: 約11億円
 床面積: 現工場の約4倍(予定)
 着工: 2022年9月 完成: 2023年春
 稼働開始: 2024年春予定



※1 CRP(C-Reactive Protein): C反応性蛋白。 ※2 HbA1c: ヘモグロビンA1c。

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

31

- 新興国では、ハイエンド市場には日本・米国製品、ミドル・ローエンド市場には上海製品の販売展開を強化します。
- ハイエンド市場向けには、先ほどご紹介した人工呼吸器の中位機種モデルを上市する予定です。
- 製品ラインアップの拡充を進める検体検査機器事業では、C反応性蛋白とヘモグロビンA1cの検査に1台で対応できる全自動血球計数・免疫反応測定装置を投入する予定です。
- インドの新試薬工場については、9月に着工し、2024年春の稼働を予定しています。

グローバルSCMの構築・ コーポレート主要機能の強化

グローバルSCMの構築

✓グローバル情報基盤の整備

全海外販売子会社との
基幹システム連携が完了

需給バランスの見える化



✓PLM/MES※システム導入に着手

技術・生産部門のDX化による
業務負荷・コスト削減

※PLM (Product Life-cycle Management) : 製品ライフサイクル管理、
MES (Manufacturing Execution System) : 製造実行システム。

コーポレート主要機能の強化

✓社内ITシステムの サイバーセキュリティ強化



グローバルでグループウェアを統一予定

✓製品のライフサイクル全体で、 最新の法規制への対応を強化

欧州IVDR※認証を取得

(2022年8月)



市販後マーケティング調査

※IVDR (In Vitro Diagnostic Medical Device Regulation) : 体外診断用医療機器規則。

- 組織の視点では、グローバル・サプライチェーン・マネジメント体制の構築とコーポレートの主要機能の強化により、グローバルな成長を支える基盤の構築を推進しています。
- グローバルな情報基盤の整備については、海外子会社との基幹システムの連携が完了し、今後は、需給バランスの見える化に取り組みます。PLM/MESシステムの導入にも着手し、技術・生産部門における業務効率や生産性の向上を目指します。
- また、社内ITシステムのサイバーセキュリティ強化の一環として、グループウェアの統一を予定しています。
- 法規制対応に関しては、8月に欧州IVDR認証を取得しました。引き続き、市販後マーケティング調査などの体制強化を進めます。

経営目標値(2024年3月期)

売上高	1,970億円		
国内売上高	1,340億円		
海外売上高 (海外売上高比率)	630億円 (32.0%)	▶	
消耗品・サービス売上高比率	48%以上		
売上総利益率	50%以上		
営業利益 (営業利益率)	200億円 (10.2%)		
親会社株主に帰属する 当期純利益	138億円		
ROE	10%		
		地域別海外売上高	
		米州	320億円
		欧州	100億円
		アジア州他	210億円
		3カ年計画	
		研究開発投資	200億円程度
		設備投資	140億円程度

想定レート: 1米ドル=102円、1ユーロ=124円

- 2024年3月期の経営目標値は、ご覧のとおりです。
- 2022年度の業績予想は、国内、海外ともに中期経営計画の経営目標値を上回る見通しですが、現時点で、目標値の変更はございません。
粗利率50%以上、営業利益率10%以上を定常的に確保できる企業体質への変革に引き続き取り組みます。

利益配分の基本方針

利益配分の優先順位は、①将来の企業成長に向けた投資、②配当、③自己株式取得

将来の企業成長
に向けた投資

- ・ デジタルヘルスソリューションを新規事業と位置付けて積極投資
- ・ コーポレートDX推進、グローバルSCM構築のための設備投資

研究
開発



設備
投資



M&A
提携



人財
育成



配当

長期安定配当を
継続

目標:連結配当性向
30%以上

自己株式取得

今後の事業展開、投資計画、内部留保の水準、株価の推移等を総合的に考慮し、機動的に検討

22/3期 年間配当金: 67円(70周年記念配当13円/特別配当15円を含む) (配当性向:24.2%)
自己株式取得: 18.9億円 (総還元性向:32.2%)

23/3期 年間配当金:
(予想) 40円
(配当性向:21.0%)

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

34

- 利益の配分につきましては、将来の企業成長に必要な内部留保の確保に配慮しながら、長期に亘って安定的な配当を継続することを基本方針としています。優先順位は、研究開発や設備投資、M&Aや提携、人財育成などの、将来の企業成長に向けた投資、配当、自己株式取得としています。配当については、連結配当性向30%以上を目標としています。
- 当期の年間配当金は40円、配当性向は21%の予想です。株主還元につきましては、通期の決算が確定した段階で検討する予定です。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告を目的としているものではありません。

【担当部署】経営戦略統括部

【連絡先】TEL03-5996-8003